

鯖江との交通（鳥井町）

いつの頃からか、ひな川の流れが変わって現在の日野川ができたと言われていますが、鳥井村の船着き場と、元鳥井村の出村だったと言われる川向こうの有定村の船着き場には、人や荷物を乗せて渡る川船が通っていました。

豊地区から鯖江地区へ行くのには、吉野瀬川の木の橋（大きな丸太を縦に半分に切って二本にし平らな面を上にした）を渡り、畑を通して日野川の船着き場に出ました。

鳥井町には日野川の渡しについての記録は残っていませんが、有定町誌には「有定の渡し」という船乗り場があって、鯖江地区から丹生郡へ行くのには「有定の渡し」か「白鬼女の渡し」を通らなければ行けなかったと書かれています。

明治三十六年に鳥井と有定を結ぶ粗末な木の橋

有定橋ができて便利になりました。しかし、昔は今のようない堤防が無かったので、橋は川岸から川岸にかけられ、大雨が降って増水すると流されました。

惜陰小学校の高等科に通う豊地区の子どもたちは、吉野瀬川の木橋と日野川の木橋を渡って学校へ通いました。

でも、有定橋が出来るまでは、渡し舟の船賃を払って鯖江へ行くよりは、歩いて府中（武生）へ買い物に行つたと言われています。

現在は、鳥井の船着き場の川上に鯖江大橋がかかり、川下の有定橋が来ています。鉄筋コンクリートの大橋は堤防にかけられて、どんな大雨でも橋の流れる心配は無くなりました。

昭和三十一年から二町6か村が合併して、丹生郡豊村は鯖江市豊地区になり、交通の要所だった船着き場は、人々から忘れ去られてしまいました。